

シリーズ『リニア中央新幹線ってどうなの?』⑬

## 南アルプスに長大トンネル掘削で環境への影響は?

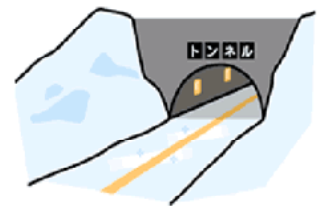
昨年末に発表された中央新幹線に関する「中間とりまとめ」ではJR東海の希望している南アルプスを貫く最短ルートが望ましいとされ、このまま推移すると南アルプスに長大なトンネルが貫かれそうです。

本シリーズ⑩でトンネル掘削により、水源・水脈に影響をおよぼし、環境破壊につながることを取り上げましたが、トンネル掘削の環境への影響はそれだけではなく、特に自然豊かな南アルプスに長大トンネルを掘削するのですから「地下水源・水脈への影響」「生態系などへの影響」そして「掘削した時の残土問題」など様々考えられます。

JR東海が計画しているリニア中央新幹線では、7割～8割がトンネル区間とされており、掘り出される残土の量も半端な量ではないはずで、残土を処分する処分地を確保するだけでは大変になるのではないかと思います。

## トンネル掘削の残土に

## ヒ素などの重金属が??



しかし、残土の問題は単に量の問題というだけではありません。

それは、トンネル掘削により、それまでは山の中や地下に問題なく安定して存在していた有害物質(ヒ素など重金属)が掘り出される可能性があり、環境に影響をおよぼす可能性が出てくるということです。

また、トンネルから流出する地下水にも岩石中から溶出した重金属などが含まれることがあり、環境汚染を引き起こす可能性があります。

このようにトンネル掘削で出る残土を処分する為には、処分地の確保だけではなく、雨などで有害物質が流れ出さないように十分な配慮が必要となってきます、その費用も膨大なものとなることが予想されます。

以上のように、大量の残土を捨てる処分地の選定に配慮するとともに、世界遺産を目指す南アルプスの自然環境・景観を考慮したものでなければなりません。

JR東海は、リニア中央新幹線に関してあまり情報を公開しておらず、それは残土処理のついても同様であり、特に環境問題は地域に影響をおよぼす恐れが予見されるわけですから、全て情報を明らかにすべきです。